

「小児泌尿器科学」

この1冊に答えがある！



小児泌尿器科を目指す人はもちろん
小児泌尿器科診療に携わるすべての方の強い味方！
一般泌尿器科医、小児外科医、小児科医
看護師，コメディカルなど

編集：日本小児泌尿器科学会

B5判／全368頁（巻頭カラー）

定価：9,000円（+消費税）

発行：診断と治療社

売れてます

ご購入はこちらから

主要目次

I 腎尿路生殖器の発生学

II 小児泌尿器科学総論

- A 診断総論
- B 治療総論

III 小児泌尿器科学各論

- A 腎・上部尿路の先天異常
- B 膀胱および周辺臓器の先天異常
- C 尿道の先天異常
- D 陰茎の先天異常など
- E 陰囊内容の異常
- F 女児外陰部の異常
- G 性分化疾患
- H 小児の下部尿路機能障害など
- I 小児の泌尿器科腫瘍
- J 小児の尿路感染症
- K 小児の性器感染症
- L 小児の尿路結石症
- M 小児の腎不全
- N 小児泌尿器科臓器の外傷など

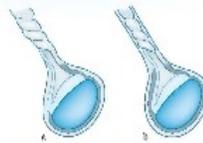
中面ページ

III 小児泌尿器科学各論

II. 陰囊内容の異常

6 急性陰囊症(1) —精巣捻転(精索捻転)—

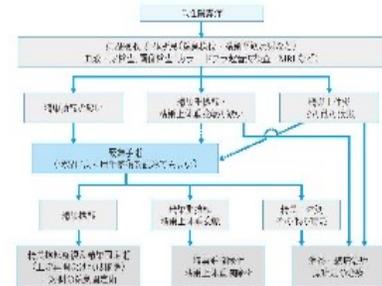
1 定義・概念
急性陰囊症は、陰嚢に存在する精巣から精索が扭れ、捻転する状態を指し、最も多く見られる急性陰嚢症である。これは、精索と精巣を軸に回転した状態の精巣捻転が原因である。通常、精索は約2回転の捻転を許容しているが、3回転以上になると、精索の血流障害が起る可能性がある。



2 原因・病態・疫学
精巣捻転の原因は、精巣が正常位置から精索の軸を軸として回転する異常な位置に移動することによる。この移動は、精索の長さや位置、精索の柔軟性などに影響を受ける。また、精索の長さや位置、精索の柔軟性などに影響を受ける。

3 診断
急性陰囊症の診断は、急性に出現する陰嚢の腫脹、疼痛、および精巣の位置異常を特徴とする。また、精索の捻転を伴った精巣の位置異常を特徴とする。また、精索の捻転を伴った精巣の位置異常を特徴とする。

急性陰囊症の診断と治療

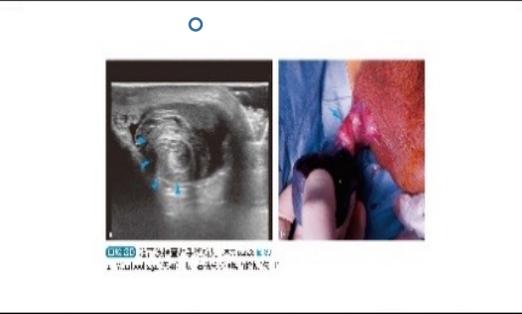


急性陰囊症の診断と治療
急性陰囊症の診断は、急性に出現する陰嚢の腫脹、疼痛、および精巣の位置異常を特徴とする。また、精索の捻転を伴った精巣の位置異常を特徴とする。また、精索の捻転を伴った精巣の位置異常を特徴とする。




治療
精巣捻転を疑った場合、手術を行う。手術は、精巣の捻転を解除し、精索の血流を回復させることを目的とする。

重要な写真は巻頭カラーで紹介!



- ・ 最前線で活躍する精鋭執筆陣が最新知見を惜しみなく披露。
- ・ どの項目からでも読み進められるよう、独立した頁構成。
- ・ 図表やカラー写真を適宜用いて「見やすく、読みやすく」表現。